

古文書倶楽部

【発行】
秋田県公文書館
2014.11
第62号

一か月に及んだ国民文化祭も盛況のうちにフィナーレを迎えました。特別展示室では「アーカイブズで秋田の文化を探れ！」(後期)を二一三〇日まで開催中です。ぜひご覧ください！

読書のつどい2014秋

祭りのあとに…

～アーカイブズ講座より～

今年度の公文書館講座も一月七日(金)のアーカイブズ講座をもって終了となりました。たくさんのご参加、ありがとうございました。アーカイブズ講座の第3回では、秋田の食や祭りに関する資料を紹介しました。特に祭りの資料として活躍したのが「風俗問状答1〜3」(混架七―七五六―一〜三)です。

文化年間、幕臣の屋代弘賢は日本各地の風俗調査のため、「風俗問状」という質問状を木版で印刷し、全国に送付します。秋田藩では、藩校明德館の儒者・那珂通庸が回答を作成しました。当館が所蔵する3冊は、その写しと思われ、2冊は秋田の風習や年中行事の説明で、例えば「眠なかしと申事」は現在の竿燈については、次のように記されています。

…長き竹に横手を幾段も結び大なる灯笼三十
四五十も付る也、角力の者をえらひて一人
にて持出し手代りの三四人添て其しりへに大
鼓らんほうにうちて一町きりに若きもの群れ
従ふ

「角力」には力くらべという意味があります。



現在の竿燈では差し手の技が競われますが、当時は力自慢の要素もあつたようです。

3冊のうち1冊には祭りや年中行事の様子が色彩豊かに描かれており(写真)、くずし字が苦

手でも十分に楽しめます。インターネットの大学生がたまたまこの資料を見た際、地元特有のカマクラの図を発見して、感激していました。

先日閉幕した国民文化祭の最終日には、竿燈をはじめとする県内の国指定重要無形民俗文化財が秋田市に集結し、勇壮な山車の運行や優雅な踊りで沿道の人々を楽しませてくれました。

「風俗問状答」には、「正月十五日 刈野のむまや市神祭」(刈野の大綱引き)や「六月廿一日 土崎神明祭」(土崎神明社祭の曳山行事)などの記述も登場します。公文書館の資料で、祭りの余韻を味わってみませんか？

【鍋島 真】



一〇月二五日(土)、秋田テルサで「読書のつどい2014秋田」が開催されました。今年度から制定された「県民読書の日(十一月一日)」の記念事業で、当日は内館牧子氏の講演や大型絵本のおはなし会など、読書に関連する様々なイベントが実施されました。当館では、完成したばかりの「出羽一國御絵図」(県C一六〇三)原寸大複製を初公開しました。

この絵図は正保年間に作成・提出された国絵図の控と考えられますが、その巨大さ(縦五三

五×横一二二五センチ)ゆえに

実物展示は困難です。今回の複製絵図は、約1メートル四方のピースを六〇枚作成して並べることで、原寸大で再現することができました。

また、特殊な素材を使用しているため、絵図の上に乗って見学することも可能(土足・裸足厳禁!)。延べ一八〇人もの方々が絵図の上を行ったり来たりするのも、複製・原寸大ならではの光景でした。たくさんのご来場、ありがとうございました。

秋田の敵討ちのはなし

敵討ちの定番『忠臣蔵』は、歳末の風物詩に
なっています。敵討ちとは、主君や近親者が殺
された場合、家臣や一族の者など第三者が復讐
の目的でその殺害者を討ち殺すこと、と辞書な
どに記述されています。しかし江戸時代には勝
手に仇討ちは出来ない事になっていて、主君や
幕府の許可が必要でしたので、幕府の公儀
「御帳」に登録し証明書を携帯しなければ、仇
討ちが成功しても証明されず、ただの殺人と見
なされたようです。

●布施平太夫の敵討ち

秋田で知られているものに、布施平太夫によ
る敵討ちがあります。平太夫は三代藩主佐竹義
処の側室智清院（布施氏）の従弟にあたり、そ
の縁で佐竹家に仕官した人です。智清院は四代
藩主佐竹義格の実母です。

元禄十五年（一七〇二）七月十二日、江戸八
王子に住む実兄山内平兵衛が、日ごろから世話
をしていた遠縁の太田又左衛門に斬り殺された
という知らせが入り、平太夫は兄の敵討ちを決
意し、藩主に永の暇乞いを提出して、敵の行方
を捜す永い旅路に出ました。各地を尋ね歩き、
第62号 苦節六年ついに敵に巡り合います。

部 宝永五年（一七〇八）二月十一日、ところは
楽 上州厩橋、現在の群馬県前橋市玉村の八幡社
俱 内に念仏堂があつて、丁度初午の日で参詣者が
書 多く混雑していたが、平太夫は念仏堂に立ち寄
古 り湯を所望しました。平太夫の下人の団七が庫

裏に湯を貰いに行き、勝手の戸を開けると、僧
形の太田又左衛門がいるのを見つけました。お
互い目が合うと、途端に又左衛門が裏口から逃
げ出したので追いかけて捕らえ、中庭へ引き出
したといいます。その時平太夫も出て「又左衛
門か！」というと、「良くないことをし申し訳
ない、平兵衛の後生の為に出家して仏を弔って
います」と命乞いをします。それを念仏堂の住
僧が見て、寺内で何事かあれば拙僧が迷惑する
というので、その向いの十王堂の庭へ引き連れ
ると、大勢の見物人が取り巻いたといいます。

平太夫は又左衛門を見て、丸腰の者を討つて
は女人にも等しいとて、「これで向かってこい」
と自分の刀を又左衛門に渡し、平太夫は脇差し
で立ち向かいます。又左衛門が逃げようとした
ところを、頬先より左の乳の下へ切り下げ、倒
れたところを二刀で止めを刺したといいます。
こうして平太夫は見事に本懐を遂げ無事帰国す
ることになります。そしてお暇ご免となり、新
知二百石を与えられたといいます。

●小貫駒之助の敵討ち

明和六年（一七六九）六月九日、手形新屋敷
の泉市右衛門屋敷脇の堰に、小貫弥生という武
士の切り殺されている死体が発見されます。前
日仲間数人による無尽の会合があり、泉村の渋
江六郎の別荘で酒肴を持ち込み、無尽算用後の
慰労とて酒宴を開き、踊り狂う程に大酔したと
いいます。やがて残った小貫弥生と大塚熊之丞
は、まだ飲み足りないとして手形田中村の酒屋六
右衛門店で沈酔するまで飲んだといいます。多
分帰る途中、喧嘩になり弥生は熊之丞に切り殺
されたものと推測されます。やがて熊之丞は、

弥生の刀と自分の刀を二本抜き身のままぶら下
げ帰って来ます。養父藤次右衛門はじめ居合わ
せた人たちが押さえつけ寝かせます。当人は大
軒で寝ていましたが、蚊帳の中でいつの間にか
身支度し、朝になるとむっくり起き上がり、押
し入れに隠していた刀を引き出すと一散に田ん
ぼの方へ駆け出します。後を追う人たちを睨み
つけ立ち去ったといいます。太平村を通り山
越えて何処となく逃亡したといいます。

一方、殺された弥生の子供駒之助はまだ十二
歳でしたので、十六歳になれば敵討ちに出るこ
とになり、家禄と家屋敷は没収され親類に預け
られることとなります。養育費として五人扶持
（一人扶持は一日米五合）を与えられ、十六歳
になれば藩に届け出ることになりました。

安永二年（一七七三）、十六歳になった駒之
助は町奉行に敵討ちに出立したい旨を届け出ま
す。熊之丞の居場所については、丸之内・上野
・増上寺内・日光などで見たという情報が入り
ますが、敵討ちは実現しなかったようです。安
永六年（一七七七）にも、江戸の松平越後守家
の厩別当をしているという情報が入りますが、
これも空振りに終わったようです。いずれこの
敵討ちは、実現した記録はないので本懐は遂に
遂げることはできなかったようです。

敵討ちは、制度化はされていなかったのです
が慣習として、武士は格下の者が敵討ちをしな
ければならなかったようです。討つ方が幼なか
ったり、力が相手より劣る場合は助太刀を許可
されていたといいます。

資料…「国典類抄雑部」「伊豆園茶話」

「岡本元朝日記」ほか

【嵯峨稔雄】